

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1679号 2003年04月07日(月)

《 might be a some sort of accord 》

今週は、日銀と政府の定期協議（8日）、G7（週末）などいくつかの注目される会合が開かれる。相場にどのくらい大きな影響があるかは疑問な面もあるが、前者は正式な形では未だかつて最初であり、後者は米英軍のイラク侵攻後初。そのほかに今週は、日銀政策決定会合が定期的なものとしてあり、国際的に注目される会合としては9日の国連安保理非公式会合が北朝鮮の核問題を討議する。北をめぐる動きにも注目したい。

日銀と政府の定期協議には、小泉首相、塩川財務相、竹中担当相などが政府側から、福井総裁、武藤副総裁、岩田副総裁などが日銀側から出席の予定。財政の責任者と金融の担当者が一同に会するわけだから、「一種のアコードは可能か」という議論に進むかどうかのポイントだろう。最初だけに、相手の、または参加者一人一人の腹のさぐりあいはずあり、その後何か具体的な策や協定が結べるかの話し合いがもたれるだろう。結果が発表されるのか、発表されるとしてもどういう形になるのかなど、まだ不確定要素が大きい。

銀行株が大きく下げ、金融システムに対する不安感が再燃しかねない状況だけに、市場はその結果に注目せざるを得ない。「何か具体的なものが出てくる」と予想されるような状況ではない。しかし、何も出てこないようだと市場の失望感が強まるだけに、とりあえずは「デフレ克服に向けての決意表明」程度か。

小泉政権は、大胆な措置が打ち出せる基盤を失いつつあるように見える。それは大島農相の後任選びのプロセスに明確に示された。政権基盤は弱体化しつつある。一方の日銀も、新総裁を迎えたばかりであり全体に手探り状態だ。そこを乗り越えられるかどうか。

週末のG7は、対イラク開戦で激しく対立した米英と欧大陸が、経済という外交・軍事とは違う分野でどのような課題への取り組み姿勢を示せるかが注目される。今の世界経済が抱える問題にG7が有効な処方箋を持ち合わせているとは思えない。各国は財政、金融政策の両方でかなり手詰まりになっている。アメリカも財政の赤字が膨らんできたし、この事情、つまり財政の厳しさは日本やヨーロッパでも変わらない。金利の引き下げ余地があるのは、ヨーロッパくらいで、日本とアメリカの金利はかなり低いところまで来た。

結局G7は、

「市場混乱の折りには、有効に対処する」

「各国は成長維持のために、有効な措置を取る」

といった精神訓話を出して終わりになる可能性が強い。為替市場に関しても、「必要なら協調行動を取る」といういつもの文言の声明は出てくるだろう。しかし、アメリカは自国通貨ドルの下落が秩序だったものであれば、ドルの下落を積極的に止める介入をしそうもない。ということは、ドルが対円で下がったときに介入するのは日本の通貨当局だけになるだろう。

対欧州ユーロでのドルの下落についても、今の水準だったらアメリカは問題にしないでしょう。つまりユーロ高を放置するということです。輸出という観点からすると、ヨーロッパはかなり苦しい水準に来ている。しかし、今のアメリカと欧大陸のちぐはぐな関係から言っても、協調行動は難しそうだ。

世界経済はイラク戦争に加えて、SARS (Severe Acute Respiratory Syndrome) が特にアジア経済、それに世界の観光産業に与える影響を懸念せざるを得ない状況になってきた。アジア経済はこれまでイラクでの戦争から比較的シールドされていた。それは株式市場の動きにも見ることができた。しかし、代わって SARS がアジア地域の観光などの産業に決定的な打撃を与えつつある。これは既にイラクでの戦争という大きな問題を抱えている世界経済にとっては大きな負荷である。

《 North Korean week ? 》

今週は北朝鮮の核問題が一つのヤマ場を迎える。9日には国連安保理の非公式会合が開かれる。北朝鮮はこの週末から、この非公式会合を非常に警戒して非難声明を出している。核の問題をあくまでアメリカと話し合いたいとする北朝鮮は、多国間の場に持ち出されて非難を浴びるのが嫌なのである。

北朝鮮は既にNPT脱退を表明している。正式の脱退は宣言した日から90日が経過したときとなっているようで、それが10日。前回北朝鮮はその一日前に脱退を撤回した。今回はどうだろうか。

日本では引き続き、北朝鮮は追いつめられると非常に危ない行動に出るし、日本にもミサイルが飛んでくるかもしれない。朝鮮半島が戦場になれば難民がたくさん来る、といった危機意識が強い。しかし先週この北朝鮮問題を扱ったBSテレビの番組で、従来とはやや違った、しかし信頼するに値する見方が出てきたので、皆さんにそれを紹介しましょう。以下に掲げる文章は、私がその番組のあとに書いたエッセイです。

「(日本の北朝鮮外交は)手詰まり」とよく言われるが、「本当に手詰まりになっているのは、北朝鮮なんですよ」と重村さん。世界中の目と耳はイラクに集まっている。しかし、本当に今日本人が見ておく必要があるのは朝鮮半島情勢ではないのか、というのが今回の番組の狙い。もう一回整理してみよう、と。

ゲストは、拓殖大学教授の重村智計（しげむら・としみつ）さんと、「軍事研究」編集委員の河津幸英（かわづ・ひでゆき）さん。二人の話が一つの点で非常にマージした（重なった）と思うのは、我々が考えているほど北朝鮮は指導者を含めて大胆ではないし、選べる選択肢が数多くあるわけではない、という点だ。

たとえば北朝鮮は何かあったら「ソウルを火の海にしてやる」と言う。しかし河津さんは、北朝鮮がソウルを攻めるには軍隊を南下させねばならないが、戦車や兵站を担うトラックを動かすためには燃料がいる。しかし、今の北朝鮮にはそれがない。だから、「北朝鮮の軍隊は攻められたら戦う能力はあるだろうが、誰かを攻める力は弱い」と軍事専門家としての見方を披露。重村さんはこれに関連して、「今北朝鮮に入っている原油は中国からの50万トンだけ。軍事行動をしていない日本の自衛隊が使う石油は、年間150万トン」だと数字を示してくれた。つまり、今の北朝鮮にはエネルギーという点で、「攻撃的軍事能力はない」との見方。ミサイルについても、「核を搭載しなければ、それほど脅威ではない」（重村さん）と言う。

北朝鮮の食料や燃料の状況はどうなっているのか。食料は相変わらず厳しいが、悪化しているのは燃料不足で、最近では平壤でも停電が頻繁に起きているという。だから、アメリカと日本にエネルギーの供給を止められている北朝鮮の方こそ、「どこかで事態を展開させたい」と考えているという。一時次々に外交カードを切ってきた北朝鮮が最近静かなのはなぜか。重村さんは、「北朝鮮はアメリカがイラクを攻める前にアメリカと話をしたかった。もう（対イラク戦争が）始まってしまったので、カードを切る意味がなくなっているのではないか」との見方を示してくれた。

では北朝鮮はカードも切らずに何をしているのか。金正日はすでに43日間も北朝鮮のメディアに出てきていない。「恐らく」としながら、「軍の幹部と一緒に24時間 CNN や ABC を見ながら、イラクに対するアメリカの戦争の手順を分析し、それを北朝鮮に当てはめた場合の作戦を考えているのではないか」と重村さんは観測する。

アメリカはどう考えているのか。ニューヨークから前日帰られたばかりの早稲田大学大学院アジア太平洋研究学科の川村教授には電話で番組に参加頂いたが、「イラクと北朝鮮を明らかに区別して考えている」という。アメリカの本音は、「（北朝鮮は）今直ぐのアメリカにとっての脅威ではない。イラクとは違う」（川村さん）ということもあるし、「今のまま身動きできなくしておけば、金正日の体制はいつかつぶれると見ている」（重村さん）ということもある。重村さんは、アメリカが「北朝鮮が一線を越えた」と見るのは「使用済み核燃料からのプルトニウムの抽出 核の輸出」。重村さんは、「北朝鮮は恐らくプルトニウムを抽出する」として、その際に事態が動く可能性があると予測された。

日本はどうすればよいのか。「原則は譲らない」というのが必要な姿勢だという。「拉致問題の解決なくして、国交正常化なし」という今の原則を曲げない、ということだという。北朝鮮に利権がなかった小泉首相だからここまで情勢を動かせた。この姿勢を続け

れば、困っているのは北朝鮮だから事態はいずれ動く、と。蓮池さんの子供向け手紙が拒否されたとかいろいろ問題はあるが、今の日本は原則を守りながら、「いつでも交渉する用意はある」との姿勢を北朝鮮に示すのが賢明というのが重村さんの結論だった。

日本でしばしば議論になる、「朝鮮半島有事の時には難民が大量に日本に押し寄せる」については、重村さんは「あり得ない」と明言。それは番組の中ではなかったのだが、

- 1 . 朝鮮半島の人々、特に北の人々は徹底して日本を「邪の国」、半島の人間を差別した国と教えられている。中国に逃げて日本に来ようという人はほぼいないと言える
- 2 . 特に北朝鮮には、日本で論じられているような大量の難民を運ぶ船も、そして燃料もない

という明確な答えだった。戦後の日本の北朝鮮に対する外交は非常に歪んだものであったことが明確になりつつある。北朝鮮の経済を美化した時期があったし、その姿勢を直さなかった政治家、政党も多かった。北朝鮮をもっと事実に基づいてみる必要があるということだろう。

我々が考えている以上に北朝鮮が実質的脅威でないにしても、だからといって今週の国連安保理の非公式協議が重要でないなどといっているわけではない。いつでも、凶器を持った独裁者は危ない。イラクにばかり目を奪われていると、日本により近いところで、危機が進行する危険性もあるということだ。北朝鮮での危機の深まりは、日本の株と為替に両方ともマイナス要因である。これは円相場にも響く話だ。

《 growing influence of SARS 》

SARS が市場にもたらす影響は不明である。今のところ、20の国と地域で発症が報告されており、感染者は約2400人とされる。重症化する人の割合は感染者のほぼ1~2割。死亡にまで至る人は、発症した人の3~4%。従って、罹患すると確実に死に至るといようなエボラなどと比べると、患者がサバイブできる可能性は高い。また、感染に関しても、基本的には体調の悪い人が多く、患者の近くで活動した人でも全く感染しない人がいることも分かっている。

しかし何よりも不気味なのは、コロナウイルス説が有力だが、病原菌が特定できないこと。クラミジア説もあるし、複合説もある。菌が特定できないから、対抗薬も作れていない。原因が不明の病気と言うだけに、人々を恐れさせるに十分であり、日頃それほどマスクをしない香港の人々がほぼ全員マスクをして歩いている姿を見れば明確である。

これは世界の観光産業に大きな打撃を与えるだろう。中国などは安全キャンペーンをしているが、同国当局の今までのいい加減な姿勢と併せて、原因不明というところから中国

への観光需要はしばらくの間著しく減退するだろう。イラクの戦局以外では、もっとも目をこらす国際的な動きといえる。

そのイラクでは、アメリカ軍のバグダッド、イギリス軍のバスラ攻撃は、ある意味では劇的に進みつつある。今朝のワシントン・ポストを見ると記事の見出しは、「Baghdad Encircled; U.S. Officials Upbeat」とある。アップビートとは、アメリカ軍首脳の空気がよく出ている。今回の戦争が始まったのは3月20日。それからわずかに17日での首都到達。湾岸戦争は終結には43日間かかっており、あと25日間で勝利すれば湾岸戦争より素早いアメリカの勝利となる。

ただしこのバグダッドとバスラの二つの都市が、どういう形で最終的に米英軍の手に落ちるのか、どういう事になれば米英軍が勝利を宣言できるかは不明である。実は今週、アメリカはフセインを死亡、または捕捉に至らなくてもバグダッドとイラク全土を実効支配した段階で勝利を早めに宣言し、暫定政権の樹立を宣言する可能性が指摘された。

米国防総省の中に今年1月から作られた「Office for Reconstruction and Humanitarian Affairs」(ORHA イラク復興人道支援室)のトップであるガーナー中將は既にクウェートに入って、バグダッドにいつでもいける状態にあるという。ガーナー中將はフランス司令官を通じてラムズフェルド国防長官に報告を上げる立場の人間である。彼は少なくとも戦後しばらくの軍政の責任者になる。

アメリカ国内でも占領国の統治は伝統的に國務省の役割だという意見がある。従って、省庁間や議会との関係で今後この統治主体を巡る議論が白熱する可能性がある。また、その後の戦後イラク統治に関して国連をどのくらい入れるかで議論が分かれていることは既に先週触れた。イラク軍崩壊状態の中でアメリカ軍のイラク制圧は予想外に早く進み、それが世界の株価を押し上げる可能性は高いが、問題はその後である。軍事的な意味ばかりでなく、政治的、国際的にイラクが落ち着くには長い時間がかかると見られる。

今週の主な予定は以下の通りです。

07日(月)	2月の景気動向指数 日銀政策決定会合(～8日) 南北閣僚級会談
08日(火)	政府・日銀定期協議(小泉、塩川、竹中、福井、武藤、岩田各氏)
09日(水)	4月の日銀金融経済月報 2月の機械受注 国連安保理非公式会合(北朝鮮核開発問題)
10日(木)	日銀総裁記者会見 3月マネーサプライ 北朝鮮のNPT正式脱退の可能性

11日(金)

3月生産者物価指数

3月小売売上高

4月ミシガン大学消費者景況感指数

日銀の金融政策決定会合では、売掛金担保証券の日銀引き受けなど政策決定会合が踏み切るかなどが注目でしょう。イラク情勢の大きな進展を見て、現在の外国為替市場ではドルが上昇している。120円台。しかし、こうした状況が続くかどうかは不明である。上値を追い続けるとは思えない。引き続き不安定だろう。株式市場は銀行株がどうなるかが注目だ。

週末という観点から言うと、統一地方選挙の結果が出てくる。国政に響くような結果が出るのかが注目。

《 have a nice week 》

対称的な週末でした。土曜日は土砂降り、日曜日は快晴。「初めての風、初めての雨では桜は散らない」とはある気象予報士の予言でしたが、その通りでした。日曜日は東京に出てきた父親や家族と一緒に狭山の霊園にお墓参りに行ったのですが、それはそれは桜が綺麗で、どちらが目的か忘れるくらいでした。雨が降った分だけ、風が吹いた分だけ空気が綺麗になった。

その帰りに高幡不動に立ち寄りしました。京王線の高幡不動から歩いて2分ほど。いつも通過してお参りしたことがなかったので、びっくりしました。大きなお不動さんでした。土方歳三の銅像があって、「この土地の人が……」と。来年はNHKの大河ドラマが新撰組だそうで、さぞ人が集まるのではと思いました。

桜が多いお不動さんで、空気も綺麗だったしなかなか良かった。近くの方、京王線の沿線の方には、一度行かれると良いのではないのでしょうか。

それでは、皆様には良い一週間で！！

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》